

瀬戸内寂聴（せとうちじゃくちょう）

1922年～2021年



1922年、徳島県生まれ。40年、18歳で東京女子大学国語専攻部に入学。43年戦時中のため繰り上げで卒業。大学在学中に21歳で見合い結婚。26歳の時年下の男性と恋に落ち夫と一人娘を残して京都へ出奔。35歳で「女子大生・曲

愛玲」で新潮社同人雑誌賞受賞するとその後61年、「田村俊子」で田村俊子賞受賞。

63年、「夏の終わり」で女流文学賞受賞。73年51歳で出家。その後も旺盛な執筆活動を続け「花に問え」で谷崎潤一郎賞。「白道」で芸術選奨文部大臣賞受賞。

「場所」で野間文芸賞など次々に受賞。75歳で「源氏物語」の現代語訳全10巻を終える。2021年99歳没。

田辺聖子（たなべせいこ）

1928年～2019年

1928年大阪市生まれ。樟蔭女子専門学校（現大阪樟蔭女子大学国文科卒。1964年に「監獄旅行」で第50回芥川賞受賞。87年「花衣ぬぐやまつわる…」で女流文学賞受賞。93年「花ひねくれ一茶」で吉川英治文学賞受賞。94年菊池寛賞受賞。95年紫綬褒章受章。98年「道頓堀の雨に別れて以来なり」で読売文学賞、泉鏡花文学賞、井原西鶴賞受賞。2003年「姥ざかり花の旅傘」で蓮如賞受賞。2006年朝日賞受



賞。2008年文化勲章受章。2009年日本放送協会放送文化賞を受賞。他代表作に「ジョゼと虎と魚たち」「新源氏物語」等多数。私生活では66年に文学仲間であった川野彰子への追悼文を寄せたことが縁でその夫で神戸で医師をしていた川野純夫と出会い66年に結婚。2002年に死別するまで36年間連れ添った。2019年91歳没。

同世代でおられるお二人が作品やインタビューなどで私たちに残してくれたさらさら光る言葉がたくさんあります。

天国でもしお二人が対談されていたら、どんなお話をされているのでしょうか。

心に残るお二人の名言をイラストにしてみました。まだまだたくさんありますのでいつかイラスト日めくり集にしてみたいと思います。

木野電子